

# 読解力を育成するN I E活動

延岡市立土々呂小学校  
教諭 湯 淺 泰 晃

## 1 学校としての取り組み

本校は、2020年度からN I E教育推進の指定を受け、2020年度が1年目の取り組みとなる。学校教育目標「こころ豊かに たくましく学び続ける子の育成 ～やさしく かしく たくましく～」を掲げ、この教育目標の実現に向けて日常実践として学年の発達に応じた新聞の活用を行い、国語科を中心として日々の教育活動に取り組んだ。

## 2 基本的な新聞の活用について

N I E定期購読で活用できる新聞については、届いた日に高学年に配付し、活用を図り、1週間経過するごとに中学年へと送るようにして活用した。その後については、自由に新聞を活用できるように、指定する場所へ集め学級の児童一人一人が活用できるよう工夫した。

各学年においては、2クラスが共有できるような場所に新聞コーナーを設置し、日常的に新聞にふれることができる環境作りを行った。

## II 2020年度の実践について

2020年度は、このN I E実践指定校2か年計画の1年目となっており、本校の研究テーマ「速く正確に読む力を育てる学習指導の在り方 ～読解力を育成する指導の工夫を通して～」における具体的取り組みのひとつとしてN I Eを推進することとした。特に、新聞を活用して、学習指導要領の柱となっている「言語活動の充実」を図りながら、「考える力」を伸ばし、教育目標の具現化を目指してN I E教育の推進を図った。

### 1 2020年度の主な実践

#### (1) 第5学年における授業実践

① 単元名 「生活の中で読もう（教材 新聞を読もう）」 光村図書

#### ② 重点目標

目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報をみつけたり、論の進め方について考えたりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力)

#### ③ 指導の概要

本単元では、新聞記事の構成・特徴を理解した上で、同じ出来事でも新聞社によって書かれ方に違いがあることを、実際の2紙の記事を比較することを通して学習していく。そこで指導にあたって、まずは、新聞記事は見出し、リード、本文、写真、図表などの構成を持つことを理解させる。その上で、同じ出来事について書かれた新聞社の記事を比べ、新聞は書き手によって編集の中で事実が取捨選択されることを理解していく。その中で、論の進め方や図表と本文の結びつけ方に着目して読む力を身に付けさせたい。

特に本時（第3時）の指導にあたっては、まず、新聞記事を読み比べ、書き手の意図の違いを見出す土台として、記事の要旨を捉えておく必要がある。そのため記事の大まかな要旨をとらえるために、児童の実態を踏まえ指導計画を1時間多く設定し、前時と本時の中で二つの記事の要旨をつかませることとする。その際には、記事を段落に分け、段落ごとに簡潔に何が書かれているかに注目した読み取りを行う。比較できる拡大記事の掲示や色分けしたサイドライン、段落のキーワードとなる言葉の掲示物等を活用しながら、比較の土台となる記事の要旨が視覚的にも分かりやすいようにする。そして、記事の内容の違いがあるのはなぜかを個人で自分なりの考えをもち、そしてグループで練り合うことで同じ出来事に対して

も、書き手の伝えたい思いによって、多く情報から取捨選択され、内容には違いが出てくるということに気付くことができるようにしたい。また、発問・指示の言葉を精選し、児童が読み取りの視点をしっかりもって、必要な情報を探し出せるようにしていきたい。振り返りでは、学んだことや考えたことを伝え合い、書き手の意図を的確に読み取ることの良さについて振り返らせ、今後の日常生活での新聞の読み方につなげていきたい。

このような学習をすることは本校の教育目標の一つである「学び合う子ども」の育成を図る上でも意義深いと考える。

④ 指導計画

第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の新聞の一面を見比べて気づいたことや疑問に思ったことを出し合う。</li> <li>○ 単元の学習課題を確認する。</li> <li>○ 新聞の構成や記事の書かれ方を確認する。</li> <li>○ 実際の新聞を使い、構成やそれぞれの面にどんな記事が書かれているかを確認する。</li> <li>○ グループで整理し、全体に向けて報告する。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞の構成や特徴についてふり返り、「見出し」「リード文」などの用語の意味を確認する。</li> <li>○ 記事を読むときのおおまかな要旨の捉え方を確認する。</li> <li>○ 全国紙の記事を読み、おおまかな要旨を捉える。</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地方紙の記事を読み、おおまかな要旨を捉える。</li> <li>○ 二つの記事を比べて読み、どんな違いがあるかを考える。</li> <li>○ 記事を詳しく読んで、なぜ伝え方（伝える内容）に違いがあるのかを考える。</li> </ul>
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記事を読み比べて考えたことをグループで交流する。</li> </ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見出しに着目して新聞を読み、興味をもった記事を選ぶ。</li> <li>○ 選んだ記事を読んで、要旨をまとめ、意見や感想をノートに書く。</li> <li>○ 友達とノートを交換して読み合い、意見や感想を交流する。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>

⑤ 本時の目標

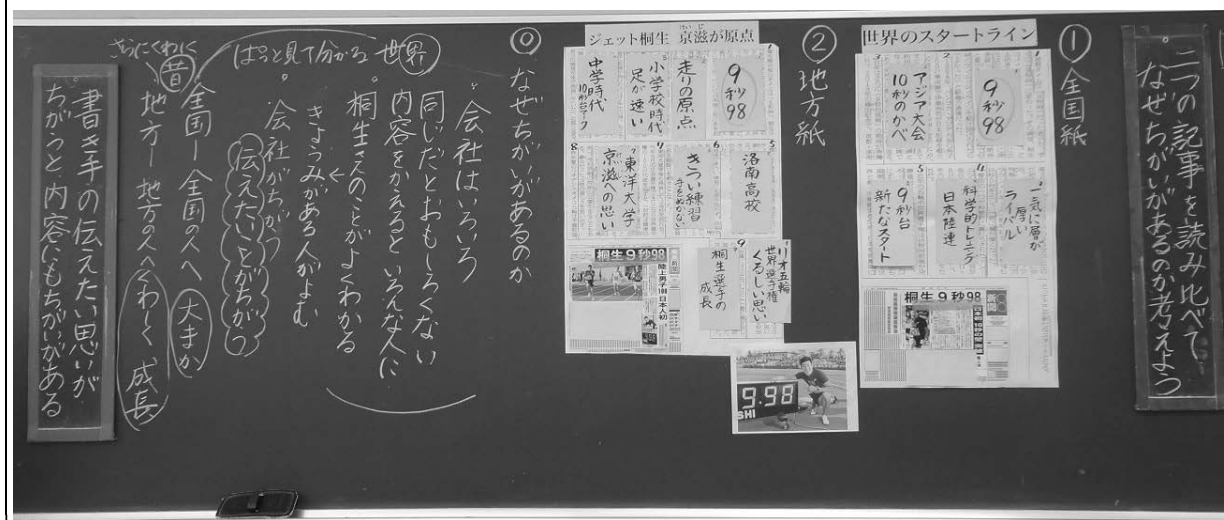
それぞれの記事の要旨を捉え、二つの記事を比較し、なぜ伝え方が違うのかについて考えることができる。

⑥ 本時の学習指導過程

	主な学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	・一つ目の記事の要旨を捉えるために、段落ごとに書かれている内容を抑えていく方法で読み進めたことを確認する。	
展開	2 二つ目の記事のおおまかな要旨を捉える。	・前時と同じ方法で段落を分け、段落ごとにおおまかな要旨を確認していく。 ・記事の提示には、拡大掲示物も活用し	【思・判・表②】 記述・発言 ・二つの記事の論の進

	<p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>比較しやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共通の「見出し「<u>桐生9秒98</u>」を提示し、同じ見出しであるのに、なぜ内容が違うのかという問いをもたせ、本時のめあてにつながるようにする。</li> </ul>	<p>め方について考え、それぞれのおおまかな要旨を捉えている。</p>
<p>同じ出来事について書かれた二つの記事を読み比べて、なぜちがいがあのか考えよう</p>			
30分	<p>4 記事の要旨を比べて、なぜ伝え方が違うのかを考える。 (個人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの目の記事には、大学のことや世界大会のことがあって読んでみたくなる。</li> <li>日本の代表すごいという感じがするな。</li> <li>今日の記事には小学校や中学校など、地元のことがのっているな。地元の人が読むのかな。</li> </ul> <p>5 記事を読み比べて考えたことをグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本を代表する選手であることがわかる →日本中みんなが読むと嬉しい。日本の誇りだな</li> <li>出身校のことが多く書かれていて同じ学校だった人は嬉しいだろうな。地元の誇りだな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの要旨を、記事のポイントとなる言葉のみを提示し、視覚的にも比べやすいようにする。</li> <li>記事のどこに着目すればよいか悩む児童には、「数字」や「場所」など、比べる観点を与えるようにする。</li> <li>それぞれの記事から伝わる印象、一番伝えたいと感じること等サイドラインをひかせたり、ワークシートに書き出させたりして整理させる。</li> <li>それぞれどういう人が、どういう関心で読んでいるのかにも着目させ、書き手の思いを共通理解する。「どちらがよんでみたいか」「書いた人はなぜこの内容をのせたのだろう」等の発問で、個人思考が深まるようにする。</li> <li>どちらが全国紙、地方紙であることを提示し、書かれた目的や対象を明確にしていく。</li> <li>同じ出来事に対しても、書き手の伝えたい思いによって、多く情報から取捨選択され、内容には違いが出てくるということも確認する。</li> </ul>	<p>【思・判・表①】 発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構成や特徴を踏まえて、必要な情報を見つけるための方法について考えている。</li> </ul> <p>【主】記述・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二つの記事を比較して違いに気づき、その理由について自分の考えをもっている。</li> </ul>
週末  10分	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じようなことが書いてあると思ったけど、読む人のことを考えて内容がちがっているんだな。</li> <li>京滋という言葉は地元の人しか分からないな。</li> <li>色々な新聞を読みたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの記事の小見出し「世界のスタートライン」「ジェット桐生京滋が原点」を最後に提示し、どちらの小見出しなのかを考えさせ本時の学習の気づきを確かなものにするのとともに、見出しの役割を再確認させる。</li> <li>これから新聞を読むときに、どういうことに注目していきたいか、自分の意見をもたせる。</li> </ul>	

## ⑦ 板書記録



### (2) 日常的な取り組み

#### ○ 新聞スクラップ

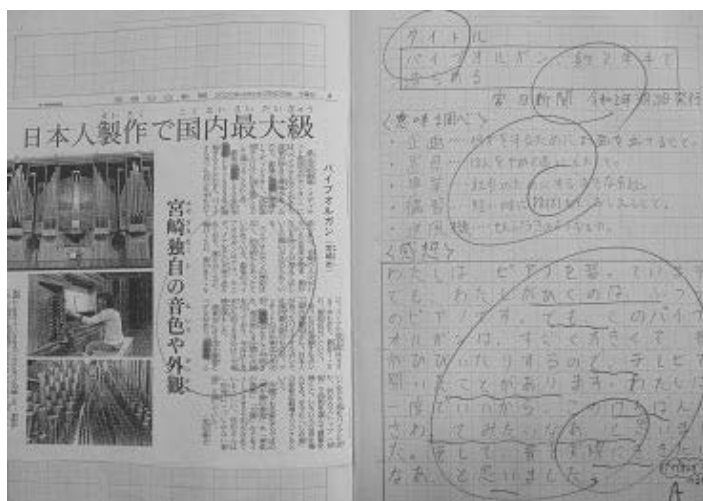
新聞記事の切り抜きをもとに、その新聞記事に出てくる語句の意味調べ活動や記事に対する感想などをまとめる活動に取り組んだ。

#### ○ スピーチ活動

新聞記事を基に、朝の会においてスピーチ活動に取り組み、感想を交流した。

#### ○ 新聞コーナーの設置

高学年を中心に、新聞コーナーを設置し、新聞記事の紹介や友達の新聞スクラップなどを掲示した。



【新聞スクラップ】

### III おわりに

2020年度、NIE実践校として活動したことにより、これまでより新聞にふれる機会が格段に多くなったことが一番の成果と感じている。日常的に新聞が身近になってきたことは、休み時間などのちょっとした時間に新聞に目を通す児童の姿が見られるなど、すぐにその効果もあった。この姿は、すぐに「読解力の向上」として現れないかもしれないが着実に児童の基礎的な力となっていくことが考えられる。

また、教職員も意識をして新聞に目を通したり、「この記事子ども達に考えさせてみたい」「新聞を使ってこんな活動をしてみたい」という思いをもつなど意識も高まってきている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、NIEアドバイザーによる講話を企画したものの実施するまでには至らなかった。次年度は、基本的な考え方を含め、NIEの指導の在り方やより効果的な実践につなげていくためにもNIEアドバイザーによる講話を実現させていきたい。

今後は、1年目の実践を共有化し、その上に新たな取り組みや新聞活用の工夫に取り組み、本校教育目標の具現化を目指してNIE教育の推進を図っていきたい。